

## 学融合推進センター

The Center for the Promotion of Integrated Science

CPIS

## CPIS NEWS

研究者入  
研 門 2013  
開催

2013年7月13～15日の3日間、葉山キャンパスで行われた「研究者入門」には物理系、生物系、化学系そして工学系、心理学系など総研大の各専攻だけではなく他大学生を含む研究者を目指す大学院生が参加しました。

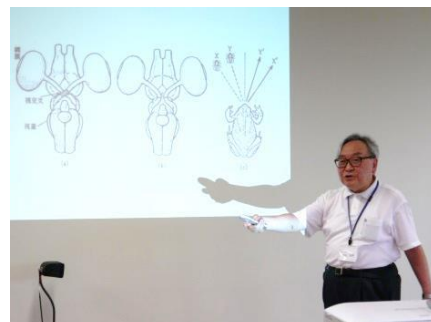
博士号を取得し、研究者として社会に出るとはどういうことか、そのために大学院生の間は何を準備

する必要があるか、先輩や教員と一緒に考える2泊3日の短期集中型のこのセミナーも本年度で4回目になりました。

研究者として求められる能力はその分野やポジションによって様々であり、どのような研究者を目指すかによって、身につけなければならない能力も異なります。そこで、今回は学生個人のキャリア形成能力、キャリアに関する諸問題に対する個人の準備性を高めることに焦点をあて、プログラムを組み立てました。

「夢を実現したい」「自分にしかできない仕事をしたい」といった研究目的から自分にあった目的を選び、なぜ研究者になりたいのかを事前に提出してもらい、当日は同じ研究目的を選んだ学生同士の話し合いから始めました。このセッションは、自分がなんのために研究をしたいのか「言葉にするこ

と」を目的としています。



次に堀田 凱樹先生（遺伝学専攻/総研大名誉教授）にお話しいただきました。堀田先生は人の役に立ちたいと思って医学部に入学しましたが、かつてラジオ少年であったこともありメカニズムを知りたいという気持ちが強く「遺伝子を使った脳の研究」を行うために基礎医学に進み、様々な業績を残されました。その後、研究者を統括する機関の長としても活躍され

「研究者のキャリアを振り返って-研究者年表-」というタイトルどおり、研究者の全体像を把握するのにふさわしい講義でした。

# CPIIS Event



夕食後は、結婚問題・就職問題について実際のデータをもとに七田先生と奥本先生の「研究者のライフワークバランス」の講義でした。研究したいけど、プライベートも大切、でも現実はいろいろな問題が山積み…。コミカルなプレゼンでしたが、ちょっと厳しい現実を見つめる機会となりました。

翌日は「自分の居場所探し」を実践してきた総研大の先輩方のお話から始まりました。総研大修了生の講師の方々には企業とアカデミアの枠を軽々と越えて活躍の場を広げていたり、研究支援の仕事に就くことで研究というものを見直す機会にしていたり、教育の魅力をいきいきと語ってくれたり、

それぞれに個性的なキャリアを切り開いている真っ最中でした。そうした先輩方に質問をぶつけることで、厳しい現実に対してどのようにポジティブに向き合えばよいのかを考える機会となりました。

午後には統計科学専攻の西山先生に「未来への旅：ちょっと年上からのアドバイス」として、どうやって「教える方法」を学んだか、大学院でどのように勉強したのか、スランプからの脱出方法などをお話していただきました。研究者の道先案内人といった役割をお願いしたものです。

これら講義の後に、「自分の研究に対するこだわりに気付くレッテルワークショップ」、最後の日には「キャリアを計画するとは何かを考えるワークショップ」を行いました。これらのワークショップは、「自分が何にこだわって研究したいと思っているのか」を気付くこと、そして「自分で実際にキャリアの計画を立てることによってど

んな準備をするべきか」を考える機会として設けました。

本セミナーがどれだけ効果を上げたかどうかは、まだわかりません。キャリア形成能力やキャリアに関する問題に対する準備性を高めることはそう簡単ではないと思っています。今後は準備性を高めることができたかについて検討を行う予定です。

この研究者入門で講師の方々の講義に熱心に耳を傾け、ワークショップの課題に真剣に取り組んでいた参加者たちは、現在はそれぞれが各専攻に戻り、これまで通りに実験やフィールドワークを続けていることと思います。しかし、参加者たちの研究への取り組み方は少し変わってきているのではないのでしょうか？ 学生自身が自分のキャリア形成に向かって一步踏み出せるような教育プログラム作りを目指しています。

(岩瀬峰代)



## Bar 総研大 立川で 臨時開店

2013年5月24日、立川キャンパスで、学融合推進センター主催のBarSが開催されました。BarS (Bar for science, Bar for

Sokendai の略です) は総研大関係者向けに、気軽に他専攻と交流する場面を設けるという目的で開催されました。学术交流を目指しても、交流する相手を知らなければ始まらない! 今回は普段着でおしゃべりができる場を目指し、立川キャンパスの皆さんにご協力を得て BarS 開店です。

金曜日の夕方 17 時半からという比較的ふらりと寄りやすい時間



に設定しました。コンセプトは、「普段着の学融合」です。今回はあえて学術的なテーマは設定せずに、純粋におしゃべりを楽しむことを目指しました。

極域科学専攻の工藤栄先生のご協力もあり、立川キャンパスのサザンテラスという素敵なカフェを会場に。当日は、立川 3 専攻にちなんだカクテルもこの日のため用意。ちなみに、日本文学専攻は、山吹の重ねを意識した緑と黄色のカクテル、統計科学専攻は日本の酒消費量 1 位 2 位のビールと梅酒を混ぜたカクテル、極域科学専攻はブルーのリキュールに南極の氷

を浮かべました。日本文学専攻のカクテルが、女子には一番人気でした。また、立川キャンパスの学生が協力してくれて、おしゃれなおつまみも用意しました。

この日は、日本文学研究専攻、統計科学専攻、極域科学専攻からそれぞれ教員、学生が集まってきたほか、遺伝学専攻、素粒子原子核専攻、先端科学専攻からも学生が来てくれて、にぎやかな会になりました。入り口を入ると、席がランダムに振り分けられ、各テーブルに研究には関係ない哲学的お題（例：思春期って何？）が振られています。参加者の多くが、そのお題を無視していましたが、大いにお互いの話で盛り上がりました（苦笑）。

参加した学生からは「国文研や極地研の先生方は普段お話しする機会がないので、とても有意義な時間でした。もう少し研究内容に

ついて話を聞いてみたかったです。」（統数研 N 君）という感想が聞かれました。

トライアルとして開催した BarS、同じキャンパスでも意外に交流がなかった立川の各専攻の交流のきっかけになったようです。今後は、このようなインフォーマルな交流がどのような学融合を生み出すのか、センターとしても検証していきたいと思います。ちなみに、次はどこのキャンパスに出店するのか、交渉中です。

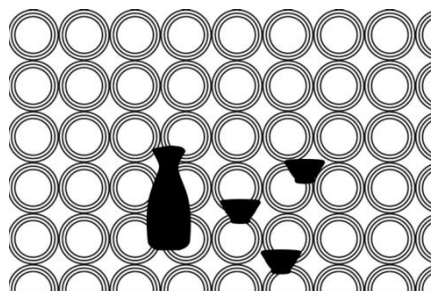
ご期待ください!

（奥本素子）



# 日

## 本酒で 学融合



～学融合推進センター 特別企画～

日本酒で学融合

7月1日(月) 15:30から16:30

2013 年 7 月 1 日、全学事業担当教員会議の終了後、日本歴史研究専攻の青木隆浩先生をお迎えし、民俗学の研究についてお聞きしました。

青木先生の研究テーマは日本酒造りにたずさわる人々のことです。

以前は、出稼ぎ労働で造られていた日本酒ですが、出稼ぎ人口の減少とともに、新たな酒造りの組織化が進んでいます。今回は、酒造りの 1 年と酒造りに関わる人々の活動についてお話しいただきました。

酒造りは冬期に集中して行われているとのことでしたが、その時期にできたお酒を毎年同じ品質で出荷するのは至難の業。そのためにも、熟成の具合や樽ごとの管理を微妙に調整することが必要となってきます。お酒を管理する側は、きき酒によってその微妙な管理を行っています。



きき酒選手権では、杜氏達は素人では見分けられないような細かな違いもきき分けていくようです。

また、現在では地域のお米を使った地域色の強い酒造りも盛んだそうです。鑑評会では優秀な酒を表彰し、酒のブランド化を担います。

当日は、青木先生がフィールドに入られた栃木県のお酒を試飲してみ、その微妙な味の違いを実感しました。

奥が深い酒造りの現場の話は、他分野の研究者にも好評で、今後も身近なテーマから総研大の研究を紹介していく会を開催していきたいと考えています。

(奥本素子)

\*青木先生が撮影された酒造りの現場の映像は、国立歴史民俗博物館において、下記の日程で上映される予定です。ご興味のある方はぜひお立ち寄りください。

2014年2月1日(土)13:30~15:30  
第20回歴博映画の会「酒造労働の現在―出稼ぎから通勤へ―」

場所：国立歴史民俗博物館・講堂  
(260名)、入場無料、申込不要・先着順



## 玉 際コミュニケーションプログラム

異なる分野の研究者に英語で研究内容を伝え、相手の研究内容を理解することは研究者にとって必要な能力です。平成 25 年 6 月 12 日(水)~14 日(金)に研究の魅力を世界にアピールする実践的能力の獲得を目的とする総研大レクチャー(国際コミュニケーション)を実施しました。

「パワーポイントを使ったプレゼン



単に英語を教えるだけでなくプレゼンの所作まで教えてもらえます。

ゼンテーションと違ってポスタープレゼンテーションはどのようなことに気をつければいいの?」「秋には国際学会に参加するのだけど…。」「英語は必須!この機会に何とかしたい」と思っている学生たちが葉山に集まりました。

講師は、ネイティブスピーカーで、日本人学生だけでなく留学生も一緒に受講するため、英語づけになります。講師からより良いプレゼンにするためのコツを教わり、すぐに実践。椅子に座って講師の講義を聴くのではなく、常に体を動かしながら学びます。

このレクチャーの特徴はレクチャーと並行して JSPS サマープログラムフェロー(アメリカ、ドイツ、イギリス、フランス、カナダから日本に短期滞在をしている若手研究者)との交流があることです。懇親会や日本文化紹介などのイベントで自分のコミュニケーションスキルを試し、最終日にはフェロ

ーとの合同ポスターセッションが行われました。

「自分の研究の 5 分間プレゼンテーションスキルとフェローとのコミュニケーションでの度胸が役に立ちました。とりあえず、英語を強制的にしゃべるという機会を日本で経験して本当によかったと思います。」このセミナーの後すぐにノルウェーに短期留学した学生からメールを貰いました。他の学生もこのセミナーをステップにして世界に飛び出すことを期待しています。

(岩瀬峰代)



最終日には、英語で JSPS サマープログラムフェローに自分の研究について話します。

## CPIIS Story

花火、  
岡崎  
にて

菱川明栄

名古屋大学・大学院理学研究科教授（2003 年～2010 年・機能分子科学専攻分子科学研究所准教授）



その日の朝は轟音で目が覚める。毎年のことなのにすっかり忘れてしまい、ああそうだった、と思いながら起き上がる。

総研大物理科学研究科の 2 専攻に属する教員が勤務する分子科学研究所は愛知県岡崎市に位置する。岡崎市は人口 40 万人弱の中核市であるが、花火大会の開催される 8 月の第 1 土曜日には市の人口を越える多くの人出でにぎわう。花火大会は岡崎の一大イベントであり、花火は市内のマンホールのふたにも描かれる。

早朝の花火大会開催の合図から夕方まで、浮き立ったような、少し落ち着かない時間を過ごし、この日のために解放された研究所の屋上へ。岡崎の花火は市内を流れる乙川、矢作川の河畔 2カ所で打ち上げられる。研究所は高台にあるためその屋上からは両方の花火が視界に入り、川ぞいの喧噪から離れてビールを片手にゆっくりと鑑賞できる。

夜空に輝く花火は、大きさが 200 メートルとも 300 メートルともいわれ、一瞬で消えてしまうとはいえ極めて巨大な展示物であるが、その元になっているのは、わずか数十センチ程度の尺玉である。花火師はこの中に様々な工夫を凝らし、色とりどりの、そして様々な形の花火を作り出すと聞く。夜空に輝く花火の形は尺玉の中に星（火薬玉）がどのように配置されていたかによって決まり、裏を返せば、花火の形を見れば尺玉がどのように作られていたか、が分かるということである。

当時、私たちのグループは分子研でちょうどこの対応を分子に応用した研究を行っていた。これは「クーロン爆発」という現象を利用したものである。極めて高い強度の極短レーザーパルスを分子に照射すると複数の電子が速やかにはぎ取られ、大きなプラス電荷を持つ分子イオンが生まれる。分子イオンは、プラス電荷の間に働く

強力なクーロン反発力によって「爆発」し粉々に壊れる。これがクーロン爆発である。この壊れ方を正確に測定することによって、レーザー光が当たった瞬間、すなわちこの「分子の花火」が打ち上げられた瞬間に分子がどのような形をしていたかを調べることができる。ナノスケールの分子の挙動を、花火を使って拡大することでその詳細を調べることができるといふ算段である。

分子研ではこの手法を用いてアセチレンと呼ばれる分子の異性化反応を調べた。その結果、水素原子が 100 兆分の 9 秒程度の極めて短い時間で他方の炭素原子に移動した後、しばらくすると再びもとの場所へ戻っていることがわかった。あたかも水素原子が分子内を「回遊」という予想しなかった分子のふるまいを見いだすことができた。

最初に実験に取りかかったのは論文として発表するより、3 年ほど前のことだった。当時は分子の形の変化がどのような量に反映されるかが分からず、はっきりとした結果が得られずに終わった。実験が終わって半年くらいたった頃、ある条件を満たす分子については水素の動きがうまく取り出せることに気づいて、ようやくかたちにすることができた。花火に縁のある場所で、このような研究ができたことを嬉しく思う。

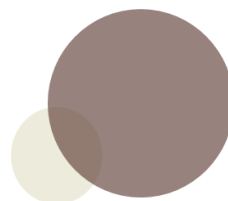
表 1 総研大の各キャンパス近郊で開催される代表的な花火大会

キャンパス名	専攻	大会名	場所	日程	概要
佐倉キャンパス	日本歴史研究	佐倉市民花火大会	佐倉ふるさと広場 周辺(印旛沼湖畔)	8月3日(土)	佐倉市の花火大会の歴史は古く、1956年に「佐倉樋之口橋納涼花火大会」として最初の花火大会が行われる。その後1989年に「佐倉・国際印旛沼花火大会」の名前になった。「国際花火大会」は毎年8月の第一土曜日に行われ、その名のおと世界の花火(主にヨーロッパ)を集めて打ち上げるものだった。2004年度に中止となった。しかし、2007年10月20日(土)に「佐倉市民花火大会」として再出発をした。(出典:ウィキペディア)
千代田キャンパス	情報学	隅田川花火大会	隅田川	7月27日(土)	1732年に発生した大飢饉とコレラの死者を弔うため、1733年7月9日(享保18年5月28日)旧暦、両国の川開きに花火を催したのが始まりとされる。この当時は20発前後の花火で、かなりのんびりとしたものであった。(出典:ウィキペディア) 今年は豪雨のため30分で中止になりました。
		神宮外苑花火大会	明治神宮外苑	8月17日(土)	第1回は1980年(昭和55年)8月1日に明治神宮鎮座60年記念として神宮球場で開催され、球場バックスクリーン横から打ち上げられる3000発の花火、110mのナイアガラ花火に、当日詰め掛けた多くの観客が酔いしれた。以後、毎年恒例となり、神宮球場をはじめ、国立霞ヶ丘競技場、秩父宮ラグビー場、軟式球場の4会場で開催されている。(出典:ウィキペディア)
相模原キャンパス	宇宙科学	相模原納涼花火大会	相模原市中央区 水郷田名	8月24日(土)	神奈川県でも有数のスケールを誇る相模原市の大会。昭和26年から「情緒と水郷と鮎のまち」水郷田名の復興を願って始められた。打ち上げ場所から一番近い観客席では、迫力ある花火を体感することができる。(出典:Walker plus HP)
岡崎キャンパス	基礎生物学 生理科学 構造分子科学 機能分子科学	岡崎観光夏まつり 花火大会	乙川、矢作川の河畔	8月3日(土)	岡崎市は江戸時代から続く三河花火の本場であり、現在もおもちゃ花火問屋が数多くある。菅生川では、江戸時代より菅生神社の祭礼として奉納花火が行われている。戦後は市と合同で花火大会が行われるようになった。岡崎市の中心部を流れる乙川、矢作川の河畔を利用して行われており、川面には鉾船が浮かび、岡崎城をバックに花火が打ちあがる。(出典:ウィキペディア)
土岐キャンパス	核融合科学	土岐市織部まつり	土岐川河川敷	8月3日(土)	野焼き窯と花火の夏祭り。市民参加型の祭りで野焼きの炎と花火の共演(出典:土岐市年間イベント情報)
立川キャンパス	統計科学 極域科学 日本文学研究	立川まつり国営昭和記念公園花火大会	国営昭和記念公園	7月27日(土)	立川の花火大会の開催は、昭和29年の第1回立川納涼花火大会として始まった。1.5尺玉の大玉があがり、75万人もの観客が訪れる。(出典:ウィキペディア)
葉山キャンパス	生命共生体進化学	逗子海岸花火大会	逗子海岸一帯	6月1日(木)	夏の到来を告げる花火大会となっている。(出典:逗子市経済観光課商工振興HP)
		鎌倉花火大会	鎌倉海岸	7月23日(火)	今年の夏で65回目を迎える鎌倉花火大会。海の上を走る船上から、次々海中に投げられる名物の水中花火をはじめとする花火が華やかに打ちあがる。(出典:鎌倉市観光協会HP)。
		葉山海岸花火大会	森戸海岸	7月25日(木)	葉山町の夏の風物詩となっている恒例の花火大会。打ち上げはもちろんのこと、森戸海岸沖の船から投げ込まれる水中花火も見所となっている。(出典:葉山町HP)。
つくばキャンパス (KEK)	加速器科学 物質構造科学 素粒子原子核	土浦全国花火競技大会	土浦市・桜川河畔	10月5日(土)	日本三大花火大会の一つとも称する大規模な花火大会。スターメイン、10号玉、創造花火の3部門を60近い花火業者が競う。コンテスト形式であるため芸術性の高さは全国屈指である。(出典:つくば周辺伝統行事カレンダーデータベースHP) KEKからは少し遠いかもかもしれませんが…。

菱川先生のお話に触発されて、総研大の各キャンパスの近くで開催される花火大会の情報を集めてみました(表1)。多くの専攻でけっこう大きな花火大会を眺めることができそうです。

この夏は他専攻に出かけたり、他専攻の方を招いたりして一緒に花火を眺めるのも一興ではないかと思います。その時は、冷えたビールと熱い研究談義は欠かせませんね。

(岩瀬峰代)



# CPIS Team

## 運営委員となって

小林行泰

総合研究大学院大学教授 天文科学専攻

都心に出張したついでに、新宿にあるビックロに立ち寄った。ビックロというのは、家電量販店であるビックカメラとカジュアル衣料で有名なユニクロが合体した店である。どちらも私にはなじみの店だが、このビックロに立ち寄るのは初めてだった。最近、学融合センターの運営委員を拝命したことが、原因なのだろう。つい、融合のキーワードが浮かんでしまう。地上 8 階地下 3 階の真四角な建物は大きく真っ白で、真っ赤なロゴが良くはえる。中にはユニクロの服を着たマネキンがカメラを持っているくらいで、基本は双方の商品が同じ建物の中で売られている。期待したビックとユニクロを融合したような商品には出会えなかった。

新しい学問分野を切り開くことは大学の使命のひとつだと思う。なかでも、異なった分野を融合して新しい分野を切り開くことは、

総研大  
の環境

を考えれば、当然、選択すべきひとつの方向だ。しかも、ここでは学融合センターのリードとサポートが極めて有効に機能すると思われる。難しいところは、共通キーワードを共通とし研究を進めるだけで、新しい分野が切り開けるわけではない。また最初から異分野を融合した新しい分野が見えてくるとも思えない。共通キーワードのある共同研究で交流を深め、融合研究に進めるものを模索するという、現在の融合センターの方針は理にかなったものだと思う。ビックロレベルからどれだけ先に進めるかが肝要だろう。

私の専門は観測的赤外線天文学で、新しい望遠鏡を建設したり、観測装置を開発して、それを用いて天体観測・研究をするということをして来た。考えてみると、中学生の頃から、50年近く同じことをしていることになる。少し前は、ハワイのマウイ島の山頂（すばる望遠鏡のあるハワイ島は良く知られているが、マウイ島はハワイ島の隣の島である）に口径が 2 m の望遠鏡を建設してキューサーまでの距離を測る観測的研究をしていた。今は人工衛星に小さな望遠鏡を搭載して、我々の銀河系の中の星の距離を測るプロジェクトを進めている。

総研大は文系と理系の分野を含み、融合センターの運営には、広い視野が必要される。理学部と工学部との間でさえいわゆる文化の違いはとまどうほどであるが、理系と文系ではなおさらと予想もつかない。私自身は、限られた分野の中でプロジェクト遂行に追われるように過ごしてきた感があり、ここの運営委員はちと任が重い。それでも、新米運営委員として、広い分野を視野にいれて、文化の違いなり、融合研究なり、じっくりと勉強して行きたい。その過程での新しい発見に期待し、それを楽しみながら運営に参加して行けたらと思っている。



超小型位置天文衛星・nano-JASMINE  
と私

CPIS Team の詳細は学融合推進センターweb site をご覧ください。  
[http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/?page\\_id=24](http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/?page_id=24)

## 学融合推進センターの教員となって

本郷一美

総合研究大学院大学准教授 生命共生体進化学専攻

今年度から学融合推進センター兼担教員となりました。所属は生命共生体進化学専攻です。

私は、学部、大学院では「理系」「文系」の区別で言うと、「文系」に属してきました。学部は「人文科学科、美術史・考古学専攻」、博士課程の前半は「歴史・人類学研究科」です。自分自身の興味は「先史時代のヒトによる動植物利用」だったので、「理系ですか」と言われることもありましたが、しかし、当時はまさに「学際」という言葉が盛んに使われ始め、自然科学的な研究と考古学はどのように連携して

行くか、考古学は「科学」かどうかが論じられていた時でした。大学院の途中で、アメリカの大学の「人類学部」に留学し学位をとることにしたのは、アメリカの「人類学」の枠組みの中では、「理系」「文系」の垣根がないのが自然であるということに魅力を感じたからでした。ヒトをあらゆる側面から研究する人類学は、本質的に「学融合」的なものでなければならぬのです。

しかし、学位をとって帰国すると、就職先は理学部、続いてここ「先導科学研究科」で、私は「理系研究者」として分類されます。「ご専門は」と尋ねられ、「考古学、人類学です」と答えると、「先導科学で？」と不思議な顔をされることもよくあります。そういうわけで、私は30数年間ずっと、既存の「文系」「理系」の二項対立ではどちらにもぴったりと属することができず、「学際」「学融合」の可

能性と難しさを感じつつ、違和感やアウトサイダー的意識を少し持ちつつ研究を続けて来たように思います。これまで、「文系」「理系」どちらかに分類される研究者とも、私のようにどちらとも言えない研究者とも共同研究をしてきた経験を、「専門的に特化した基盤機関を抱える総研大で『学融合』を推進する」というセンターのミッションに生かすことができるのではないかと考えています。



トルコのチグリス川上流にあるハサンケイフホユック遺跡（紀元前 9500 年頃）から出土した魚骨

## 学融合推進センターに赴任して

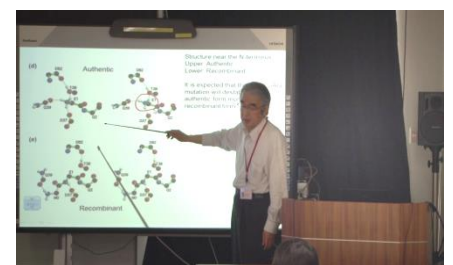
桑島邦博

総合研究大学院大学 学融合推進センター特任教授

本年 4 月より学融合推進センターに特任教授として赴任して参りました。3 月末までは、自然科学研究機構・岡崎統合バイオサイエンスセンターに勤務（分子科学研究所も兼務）し、蛋白質のフォーリング分子機構に関する研究に携わっていました。岡崎統合バ

イオサイエンスセンターは英語では、Okazaki Institute for Integrative Bioscience といいます。また、岡崎を離れる 2 年前には、総研大の特別経費のサポートにより「統合生命科学教育プログラム」を開始することができましたが、これも英語では the Integrative Bioscience Education Program というので、最近、私には "Integrative" とか "Integrated" という言葉がいてるようです。上の教育プログラムを実施する中でいつも思っていたことは、せっかくすばらしい講義が幾つも行われているのに、出席する学生の数が少な過ぎることでした。同じような問題が学融合

教育事業においてもあるのではないかと想像します。微力ながら、皆様のご協力により、学融合教育事業をより一層効果的に推進出来るよう力を尽くしたいと思います。



平成 23 年度統合生命科学教育プログラム授業。遠隔授業システムと電子黒板を導入した授業が行われている。写真の講師は筆者。



## 学融合推進センターに赴任して

塚原直樹

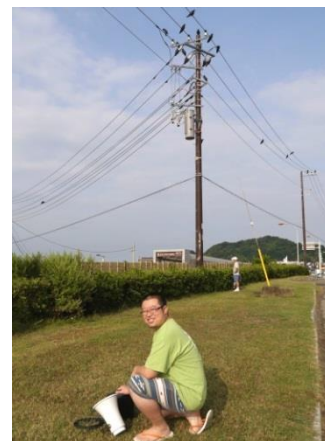
総合研究大学院大学 学融合推進センター助教

2013年4月に助教として着任いたしました塚原です。以前は宇都宮大学にて、カラスの視覚や音声コミュニケーションに関する研究を行い、それらの成果から、カラス被害対策への応用開発なども行ってきました。私の研究については9/18(水)の葉山セミナーにてご紹介させていただく予定ですので、ご興味のある方はぜひお越し

下さい。セミナーの詳細は学融合推進センターのHPにてご案内いたします。

私はこれまで11年間同じ研究室に所属し、外の世界を全く知らなかったため、総研大で過ごす日々が大変刺激的です。独特な大学院教育のプログラムは、学生の傍らで参加させていただいている私にとっても、勉強になるものばかりです。私自身は、総研大の持つ多様性とは全く正反対の環境で過ごしてきたわけですが、それが総研大にとっては珍しい個性のひとつとしてお役に立てることもあろうかと思えます。そんな私ならではの気づきや発想で、学融合推進センターのミッションの遂行に貢献できればと考えております。

学融合推進センターで私が担当する業務のひとつがwebによる情報発信ですが、今年度、現HPのリニューアルを予定しております。皆様へ必要な情報をわかりやすくお伝えできるようなHP作りを心掛けるとともに、webを使って、学融合に貢献できるような試みをしていきたい所存です。



筆者が開発に携ったカラス撃退装置

## CPIS Schedule

### 総研大レクチャー「日本歴史研究の方法 A-資料調査法」開講

【授業目的・概要】この授業は、日本歴史研究の基礎的な方法を学ぶ三つの講座の内の一つです。Aコース「資料調査法」では、国立歴史民俗博物館の所蔵資料を用いて、美術史学・歴史地理学・考古学・分析科学などの様々な観点からの調査と活用の方法を学びます。

- ・実施期間:平成25年7月24日(水)、26日(金)
- ・実施場所:国立歴史民俗博物館
- ・申込〆切:平成25年7月12日(金)

### 総研大レクチャー「日本歴史研究の方法 B-地域研究の方法」開講

【授業目的・概要】この授業は、日本歴史研究の基礎的な方法を学ぶ三つの講座の内の一つです。Bコース「地域研究の方法」では、実際のフィールド、特定の地域や

博物館における歴史・考古・民俗の資料を具体的に見学、確認しながら、文献史学・考古学・民俗学・分析科学の視点で調査、分析し、地域社会に還元する方法を学ぶことを目的としています。本年度は高知県、愛媛県における地域博物館の活動を高知県立歴史民俗資料館、愛媛県立歴史文化博物館等の協力のもとに、博物館の連携、史資料の収蔵環境の高度化、研究発信手法の多様化などの観点から地域における実践的な歴史研究の手法を学びます。また講義の一

部を公開講演とし、総研大の存在と特色ある学習形態の発信も行います。

- ・実施期間:平成 25 年 7 月 27 日(土)～30 日(火)
- ・実施場所:高知県立歴史民俗資料館、愛媛県立歴史文化博物館
- ・申込〆切:平成 25 年 7 月 12 日(金)

### 総研大レクチャー「科学コミュニケーション」開講

【授業目的・概要】研究者が社会に向けて情報発信するための能力を身につける。研究者個人からと研究機関からの社会への情報発信について、基盤機関で広報を担当する研究者が講義し、具体例について実習する。また、情報の受け手である社会の側が科学をどのように見ているかをメディア関係者などから学ぶ。さらに、社会の中で科学がどのように位置づけられているかを学び、研究者の社会的責任について考える。

- ・実施期間:平成 25 年 8 月 14 日(水)～16 日(金)
- ・実施場所:国立天文台 野辺山宇宙電波観測所
- ・申込〆切:平成 25 年 7 月 19 日(金)

### 総研大レクチャー「学術映像の基礎-みる・つくる 2013」開講

【授業目的・概要】学術研究における映像の活用は、研究対象の把握をより具体的にし、新たな観点から研究を見直すことにつながります。また、研究を促進させてく

れるだけではなく、最先端の研究成果を世界に示すうえでも重要な役割をもちます。本講座の目的は、次の二点です。

- (1) 映像のリテラシー(映像を読み解き、使いこなすことのできる総合的な能力)を習得すること。
- (2) それをもとに、映像の制作を自身の研究のなかに位置づけ、学術映像を制作する能力を獲得すること。

映像初心者を対象にして、学術研究の制作を基礎から体験してもらうなかで、それを実現します。

- ・実施期間/場所:  
【実習と講義】平成 25 年 8 月 28 日(水)～8 月 31 日(土)/長野県飯綱高原 ロッジ・ピノキオ。このうち、8 月 29 日(木)は国立天文台野辺山(長野県)にて、日帰りで撮影実習。
- 【成果の講評】平成 26 年 1 月 27 日(月)～1 月 29 日(水)(予定)/国立民族学博物館(大阪)
- ・申込〆切:平成 25 年 8 月 9 日(金)

### 総研大レクチャー「科学における社会リテラシー」開講

【授業目的・概要】研究者が知っておくべき社会に関する知識の中から「科学技術社会論」、「科学社会学」、「科学史」、「研究者キャリアパス」、「科学技術政策」などに関する入門的な講義を開講します。

- ・実施期間:平成 25 年 9 月 2 日(月)～5 日(木)
- ・実施場所:総研大葉山キャンパス
- ・申込〆切:平成 25 年 8 月 23 日(金)

### 後学期学生セミナー・日本文化を学ぶコース

【授業目的・概要】学生の広い視野の涵養を図るため、他の専攻の教員および学生との交流を持ち、自分とは異なる分野を理解する場としての授業科目「学生セミナー」を開講します。これによって新入生に対して研究者ネットワーク構築が重要であり、研究の発展に結びつくことを認識させる機会とします。

- ・実施期間:平成 25 年 10 月 7 日(月)～8 日(木)
- ・実施場所:本学葉山キャンパス

### 日本語講座

【授業目的・概要】日本での研究生活を送る上で必要となる、日本語能力向上の動機付けを高めることを目標に、主として初級レベルの日本語講義を実施します。

- ・実施期間:平成 25 年 10 月 9 日(月)～10 日(木)
- ・実施場所:本学葉山キャンパス

